

ひかりのこ

2月園便り

聖ミカエル幼稚園
2017年1月24日

月主題：信じて

『独り立ち』

我が家の長女が、一人暮らしを始めることになりました。4月から仕事をしている会社に通うには、我が家からでは遠すぎるためです。また、社長さんから、「社会人なのだから、親御さんに甘えてはだめよ。」と言われたためです。女の子ですし、お嫁に行くまでは親と一緒にいてもいいのでは、と書いていたのですが、我が家のリフォームのための引っ越しに合わせて、思い切って娘も私たちも決断しました。

小さい時から私たちが共稼ぎの家庭でもあったため、お家の手伝いをたくさんしてくれる子でした。ですから、家事で困ることはきつくないはず。でも5人家族でわいわいした中で大きくなりましたので、一人で静まり返った部屋に帰ることの寂しさをきつと感じることでしょ。

母親の私のほうも、独り暮らしの準備や、我が家の引っ越しのため、せわしなく動いていましたのでゆっくり考えることをしていなかったのですが、ひと段落したころ「ああ、もう一緒に暮らすことはないのだ。」という思いがこみ上げてきて、泣けてきました。

思えば夫と二人三脚で仕事をしながら3人の子どもを育ててきました。平日は子どもたちにも寂しい思いをさせたかもしれませんが、保育園や学童保育の先生方の大きな愛情の中でたくさんことができるようになりました。休みの日は子どもと一緒にあちこちに出かけ、子どもと一緒にご飯をつくったり、洗濯物を畳んだり、お掃除をしたり、親子は一体になって生活してきました。また、クリスチャン家庭の中で神様にいつもお祈りし、人として何が正しいのか、自分たちなりに懸命に伝えてきたつもりです。きっと娘なら、自分でこの先の人生を乗り越えていけるはず。夫と、「ずっとそばにいてほしい、と思うのは、親のエゴだね。娘のためにはこれでいいんだよね。」と言いつつ聞いています。

夫と、「ずっとそばにいてほしい、と思うのは、親のエゴだね。娘のためにはこれでいいんだよね。」と言いつつ聞いています。長男も独立し、娘も独立し、あとは大学生の次男のみになりました。こうやって子育ては終わっていくのでしょ。

まだまだ手のかかるお子さんを抱えているお父さん、お母さん。大変だけれど、子どもたちと一体になっていられる日々が、後になってどれほど輝いていたか気づくことでしょ。お子さんとの毎日を大切に送ってくださいね。

園長 渡部良子

キリスト教保育

「裸になる」

ご存じの通り、私たちはみな裸で生まれてきます。しかしその後は、すぐにたくさんの服を着込んで生活しています。先日読んだ本によると、熱帯地方で裸で暮らしているお母さんは、おんぶしているこどもの排尿、排便が、前もって肌感覚で分かるそうです。それを感じると、背中の子どものおしめをさっと地面に降ろして排泄させる。だから外国でこどもが「おしめ」をしていると聞くと逆に驚くといひます。

温泉に行って脱衣場で服を脱ぐと、自分の衣類の重さに驚くことがあります。それは着ていると分からない。私たちがたまに理由なく疲れるのは、自分の衣服の重さに耐えかねてのことかもしれませぬ。同じことが私たちの心の状態にも言えそうです。裸の心の上に、私たちはいろいろな経験や知識、財産、健康状態などを衣服のように着込んでいるのではないでしょか。

1年の最後にお風呂に入って身綺麗になるという習慣がありますが、これは新しい年に心機一転、裸の自分に帰ろうという意味が込められているように思ひます。また、こどもたちは抵抗なく裸になるのですが、これは羞恥心の有無というよりも、こどもが人間本来の姿に忠実だからだと思ひます。私たち大人もまた、脱げるものは脱ぐ、そういう時と場所を必要としているのです。

最後に、私が尊敬するカトリック教会の晴佐久昌英神父のことばをご紹介します。

「裸になって初めて感じる風がある。裸になって初めて知る安心がある。裸になって初めて得る自由がある。裸になって初めて出会う友人がいる。」

チャプレン 下澤 昌